

2025 年度事業報告

自 2025 年 4 月 1 日

至 2026 年 3 月 31 日

公益財団法人 日 本 棋 院

目 次

概 説

- I 公益目的事業の実施状況（囲碁普及事業）
 - 1 棋戦事業
 - 2 棋士育成事業
 - 3 囲碁対局環境の提供
 - 4 囲碁普及と囲碁指導
 - 4-1 青少年等への囲碁普及
 - 4-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導
 - 4-3 海外への囲碁普及
 - 5 段級位認定
 - 6 囲碁大会の開催
 - 6-1 青少年対象の囲碁大会の開催
 - 6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催
 - 6-3 国際囲碁選手権及び海外囲碁大会等への協力
 - 7 表彰
 - 8 囲碁関係情報提供
 - 9 囲碁殿堂資料館
 - 10 各拠点での活動
 - 10-1 有楽町囲碁センター
 - 10-2 関西総本部
 - 10-3 中部総本部

II 収益事業

- 1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）
- 2 不動産賃貸事業（収益事業2）
- 3 販売品、書籍事業（収益事業3）

III 管理部門

- 1 コンプライアンス
- 2 受取寄付金の維持拡大と有効活用
- 3 広報対応と棋士のメディアへの露出

IV 運営体制の充実をはかるための取り組み

付 記

- 役員等に関する事項
- 事業報告の附属明細書

概 説

日本の国技である囲碁を通じ、伝統文化である棋道の継承発展と普及振興を図るために、棋戦、棋士育成、情報提供、大会、認定、囲碁授業等を積極的に推進しました。また、主な事業内容は以下の通りとなります。

I 公益目的事業の実施状況（囲碁普及事業）

1 棋戦事業

棋戦を通じてその創造的思索の頂点を極めるべく、研鑽の成果を盤上で競い合い、囲碁の世界に数々のドラマと歴史を生んできました。各地で開催される挑戦手合や決勝は、新聞各紙の囲碁欄での観戦記、テレビやインターネットでの中継により、地域での普及活動に繋がっております。また、七大タイトル戦については、十段戦で芝野九段が井山十段を下してタイトルを奪取、王座戦で一力棋聖が井山王座を下してタイトルを奪取、棋聖戦で芝野十段が一力棋聖を下してタイトルを奪取し、芝野棋聖・十段、一力名人・王座・天元・本因坊、井山碁聖となりました。主な棋戦（挑戦手合、決勝）の結果は以下のとおりとなります。（段位は対局当時。棋戦名、期・回数、棋戦の形式、主催や協賛社名、対局者と結果。棋戦形式無記はトーナメント戦）

- (1) 棋聖戦（第50期 挑戦手合七番勝負 読売新聞社）
一力 遼 棋聖 - 芝野 虎丸 十段（芝野 虎丸 十段が4勝3敗で優勝）
- (2) 名人戦（第50期 挑戦手合七番勝負 朝日新聞社）
一力 遼 名人 - 芝野 虎丸 十段（一力遼名人が4勝2敗で優勝、2連覇）
- (3) 王座戦（第73期 挑戦手合五番勝負 日本経済新聞社）
井山 裕太 王座 - 一力 遼 棋聖（一力遼棋聖が3勝1敗で優勝）
- (4) 天元戦（第51期 挑戦手合五番勝負 新聞三社連合）
一力 遼 天元 - 志田 達哉 八段（一力遼天元が3勝0敗で優勝、3連覇）
- (5) 本因坊戦（第80期 挑戦手合五番勝負 毎日新聞社）
一力 遼 本因坊 - 芝野 虎丸 十段（一力遼本因坊が3勝2敗で優勝、3連覇）
- (6) 碁聖戦（第50期 挑戦手合五番勝負 新聞囲碁連盟）
井山 裕太 碁聖 - 芝野 虎丸 十段（井山裕太碁聖が3勝2敗で優勝、5連覇）
- (7) 十段戦（第63期 挑戦手合五番勝負 産経新聞社）
井山 裕太 十段 - 芝野 虎丸 九段（芝野虎丸九段が3勝0敗で優勝）
- (8) 阿含・桐山杯全日本早碁オープン戦（第32期 京都新聞社・阿含宗）
一力 遼 桐山杯 - 芝野 虎丸 十段（一力遼桐山杯が優勝、3連覇）
- (9) 新人王戦（第50期 しんぶん赤旗）
張 瑞傑 六段 - 蕭 鈺洋 三段（蕭 鈺洋 三段が2勝0敗で優勝）
- (10) NHK杯テレビ囲碁トーナメント戦（第73回 NHK）
余 正麒 NHK杯 - 井山 裕太 碁聖（井山 裕太 碁聖が優勝）
- (11) 竜星戦（第34期 囲碁将棋チャンネル）
芝野 虎丸 十段 - 井山 裕太 王座（芝野 虎丸 十段が優勝）
- (12) 女流本因坊戦（第44期 挑戦手合五番勝負 共同通信社）
藤沢 里菜 女流本因坊 - 星合 志保 四段（藤沢里菜女流本因坊が3勝2敗で優勝、6連覇）
- (13) 女流名人戦博多・カマチ杯（第36期 挑戦手合三番勝負 一般社団法人巨樹の会）
藤沢 里菜 女流名人 - 上野 愛咲美 女流立葵杯（上野 愛咲美 女流立葵杯が2勝0敗で優勝）
- (14) 会津中央病院杯・女流立葵杯（第12期 挑戦手合三番勝負 温知会）
上野 愛咲美 女流立葵杯 - 藤沢 里菜 女流本因坊（上野愛咲美女流立葵杯が2勝1敗で優勝、4連覇）
- (15) 女流棋聖戦（第29期 挑戦手合三番勝負 NTTドコモ）
上野 梨紗 女流棋聖 - 上野 愛咲美 女流名人（上野 愛咲美 女流名人が2勝0敗で優勝）

- (16) 扇興杯女流最強戦 (第10回 センコーグループホールディングス)
藤沢 里菜 扇興杯ー上野 梨紗 女流棋聖 (上野 梨紗 女流棋聖が優勝)
- (17) SENKO CUP ワールド碁女流最強戦 (第8回 センコーグループホールディングス)
金 恩持 九段 (韓国) - 藤沢 里菜 七段 (日本) (金 恩持 九段が優勝)
- (18) 日本女子囲碁リーグ (第1回 阪急電鉄、三井住友カード) 5チームによるリーグ戦。
チームセンコーグループ - チーム囲碁・将棋チャンネル (チーム囲碁・将棋チャンネルが優勝)
- (19) 王冠戦 (第66期 挑戦手合一番勝負 中日新聞社)
伊田 篤史 王冠ー志田 達哉 八段 (志田 達哉 八段が優勝)
- (20) 広島アルミ杯・若鯉戦 (第20回 広島アルミニウム工業)
横塚 力 若鯉ー大西 竜平 七段 (大西 竜平 七段が優勝)
- (21) SGW杯中庸戦 (第8回 セントグランデW) 16名のリーグ戦
鈴木 伸二八段が優勝
- (22) テイケイグループ杯俊英戦 (第4回 テイケイ、テイケイグループ各社)
酒井 佑規 六段 - 三浦 太郎 四段 (三浦 太郎 四段が2勝0敗で優勝)
- (23) テイケイグループ杯レジェンド戦 (第4回 テイケイ、テイケイグループ各社)
趙 治勲 名誉名人ー彦坂 直人 九段 (彦坂 直人 九段が優勝)
- (24) テイケイグループ杯女流レジェンド戦 (第5回 テイケイ、テイケイグループ各社)
小林 泉美 女流レジェンドー小山 栄美 七段 (小林 泉美 女流レジェンドが優勝 2連覇)
- (25) 関西オープン囲碁トーナメント2025 (第6回 阪急電鉄株式会社)
トップクラス 大竹 優七段が優勝 Aクラス 村松 大樹七段が優勝 Bクラス 倉橋 正行九段が優勝
Cクラス 堀本 満成五段が優勝 Dクラス 内海 晃希四段が優勝
- (26) 海外棋戦
LG杯、三星火災杯、農心杯、国手山脈杯 (以上、韓国主催)、春蘭杯、夢百合杯、吳清源杯、乙級リーグ (以上、中国主催) 等の海外棋戦に参戦。2013年度から海外棋戦における成績向上を目指すため、「日本の代表として一丸となって戦う」をもとに「GO・碁・ジャパン」(囲碁ナショナルチーム)を結成し13年目となります。2025年度は監督、コーチ、選手の総勢25名で編成し、強化合宿、毎週土曜日開催のナショナルチーム研究会のリーグ戦成績に応じ選手の入替えを行いチームの活性化を図っております。なお、「囲碁ナショナルチーム応援募金」は、142件1,648千円の募金をいただいております。

2 棋士育成事業

強い棋士を養成するため、院生育成及び若手棋士育成に注力し、研鑽のための環境を継続しております。

(1) 院生研修

東京本院 (40名)、中部総本部 (12名)、関西総本部 (9名) で棋士を目指す院生をクラス別に分け、毎週土・日曜日 (8回/月) に研修を実施しました。研修は、師範が礼儀作法から棋士としての心得などの指導を行い、環境面や健康面に留意しながらの運営となります。

(2) 棋士採用試験

東京本院では、4月から6月の総合成績1位が夏季採用となり、8月から11月の総合成績1位および2位が冬季採用となりました。中部総本部、関西総本部では、各総本部の総合成績1位を採用しております。また、女流特別採用についても、東京本院にて12月から2月に実施しており、1名が採用となりました。

(3) 棋士採用推薦

女流特別採用推薦として、院生及び院生経験者が対象となり、同一年内に院生研修Aクラスに5か月以上、冬季採用試験本戦において5割以上の成績等に該当すれば院生師範によって推薦され、1名が採用となりました。また、英才特別採用推薦として、候補者の実績と将来性を評価し、七大タイトル保持者およびナショナルチーム監督とコーチの3分の2以上の賛成により採用となりますが、該当者はなしとなりました。また、外国籍特別採用として、日本・中国・韓国・台湾・北朝鮮以外の国籍を持つ院生及び院生経験者が対象となり、冬季棋士採用試験に

において 5 割以上の成績を修める等の条件により院生師範によって推薦され採用となりますが、該当者はなしとなりました。

(5) 入段者

- ・東京本院 夏季採用 吉田 透真
- ・東京本院 冬季採用 陳 奕航、溝上 大介
- ・中部総本部 採用 篠田 優也
- ・関西総本部 採用 國松 聡
- ・東京本院 女流特別採用 香原 野乃
- ・関西総本部 女流特別採用推薦 片山 陶子

(6) 若手棋士育成

囲碁ナショナルチーム「GO・碁・ジャパン」に育成選手として 18 歳以下（女流棋士は 20 歳以下）の若手棋士 7 名が登録・参加。強化合宿、毎週土曜日開催のナショナルチーム研究会のリーグ戦成績に応じ選手の入替えを行いチームの活性化を図っております。

3 囲碁対局環境の提供

各拠点における対局場、ネット対局サイト「幽玄の間」や囲碁アプリによるネット環境により、誰でも囲碁が楽しめる環境を提供しております。

(1) 対局場の運営

いつでもどなたでも気軽に利用できる対局場は、囲碁界の最も基本的なインフラとして、年末年始を除き毎日営業いたしました。対局場来場者数は東京本院 13,820 名、有楽町囲碁センター 23,115 名、梅田囲碁サロン 10,869 名、中部総本部 8,441 名、計 56,245 名が利用しました。また、イベントやセミナー等に合わせ、対局場（和洋室）を貸室として提供し、対局時計や大碁盤等の貸出しを行っております。

(2) ネット対局サイト「幽玄の間」

世界の囲碁愛好家がパソコン、スマートフォン、タブレットで手軽に対局を楽しめる環境を提供し、約 5,500 万局の対局が行われました。

(3) 囲碁アプリ

「囲碁であそぼ！」（2022 年 12 月リリース）に続き、「囲碁シル」(2025 年 11 月リリース) の提供を開始致しました。囲碁シルは、AI がプレイヤーをサポートし、対局中は 3 つの最善候補を提示、さらに陣地がリアルタイムで可視化されることで自分の一手が良かったのかがすぐにわかります。囲碁を初めて触る人も、体験から始められ、オンラインの対人戦もあり、囲碁経験者でも対局を楽しむことができます。

(4) オンライン講座

2020 年 10 月に開始したオンライン講座は、さまざまなコンテンツを提供していましたが、2025 年 1 月をもって休止となりました。

4 囲碁普及と囲碁指導

囲碁の素晴らしさを幅広い世代に伝え、また、多くの囲碁愛好家の棋力向上のため、棋士による指導のほか、普及指導員による囲碁指導を全国で展開しました。

4-1 青少年等への囲碁普及

囲碁が青少年の健全な育成に寄与し学校教育に役立つことを広く認識してもらうために、地方自治体・教育委員会・学校と協力体制をとり、地域に密着した普及事業を展開しました。

(1) 囲碁入門・初級教室の実施

① 入門囲碁体験教室を開催

全国の小・中学校、自治体等の要請により棋士を派遣し指導を行いました。また、現地での継続的な開催ができるよう支援しました。

② ジュニア大会等の開催

東京本院、関西総本部、中部総本部の各施設にて棋力に応じたジュニア大会等を開催しました。

(2) 学校教育への囲碁導入

小・中・高校及び地域に密着した囲碁事業を推進するため、行政と一体となった普及活動を展開しています。2025年度は小・中・高校の正課授業として62校、11,833人、正課授業以外として102校で13,834人が参加し、小学校囲碁授業実施校は以下のとおりとなります。

北海道：岩見沢市立第一小学校他6校、青森県：弘前市立千年小学校他1校、宮城県：大崎市立古川第五小学校、秋田県：能代市立第四小学校他3校、栃木県：宇都宮市立宮の原小学校、埼玉県：さいたま市立浦和大里小学校他7校、千葉県：昭和学院小学校他5校、東京都：中央区立明石小学校他63校、神奈川県：横浜市立本郷小学校他2校、静岡県：島田市立金谷小学校他2校、愛知県：長久手市立長久手小学校他10校、三重県：熊野市立飛鳥小学校他7校、大阪府：関西大学初等科、奈良県：生駒市立壱分小学校他2校、島根県：大田市立仁摩小学校他3校、佐賀県：佐賀市立南川副小学校他10校、熊本県：玉名郡和水町立菊水小学校

また、主な行政囲碁事業の取り組みは以下のとおりとなります。

- ・東京都中央区 2012年より4つの小学校で、総合的な学習の時間を利用した囲碁授業を開始、2025年度は7校の小学校で、棋士による指導を実施しています。授業のコマ割に合わせて、指導教材、カリキュラムを用意し、学校で囲碁授業を導入する際のモデルケースとなっています。
- ・東京都品川区 放課後子どもプラン『すまいるスクール』で囲碁教室を開催。区内小学校37校全校で囲碁を採用しました。品川区は「放課後子どもプラン」(文部科学省・厚生労働省)において、東京都各区で囲碁を導入する際の推進モデル地区となります。

(3) 学校囲碁指導員講習会の開催

学校教育の中に囲碁普及を拡充し、指導者を養成するため、学校囲碁指導員講習会を実施しています。2025年度は東京都品川区、秋田県大仙市において対面形式で実施しました。2025年度から通年で受講できるオンライン動画も公開しています。

(4) 大学での囲碁授業の導入

① 東京大学教養学部と連携して囲碁授業を継続

2005年より、東京大学教養学部と連携して1、2年の囲碁初心者を対象にした全学体験ゼミナール「囲碁で養う考える力」を創設し、大学囲碁授業のモデルケースとなっています。この講座は、囲碁を実戦で学ぶことにより、判断力・分析力・集中力など総合的な考える力を身につけることを目的とした取り組みを行っています。

② 全国35大学で囲碁授業を実施

2024年度と同様に、東京大学、東邦大学、早稲田大学、日本保健医療大学、青山学院大学、琉球大学、埼玉大学、東京科学大学、筑波大学、近畿大学、京都大学、名古屋大学、福山大学、一橋大学、神奈川大学、大阪大学、東京学芸大学、九州大学、東京理科大学、長岡技術科学大学、愛知学院大学、名古屋市立大学、高崎経済大学、高崎健康福祉大学、千葉経済大学、立教大学、千葉大学、弘前大学、島根大学、尾道市立大学、桃山学院大学、九州産業大学、中村学園大学、鳥取大学と電気通信大学で囲碁授業を開講。一部の大学では初回ガイダンスのみオンライン授業が継続されますが、全ての大学で対面授業を実施しています。日本棋院は囲碁授業実施大学に29名の棋士を講師として派遣しました。2026年度も新規囲碁授業の開講に向けて働きかけを継続的に進めます。

(5) がっこう囲碁普及基金の活用

拡大する学校囲碁授業への対応とさらなる推進のため、広く特定寄付金を募ろうと2015年に「がっこう囲碁普及基金」を創設し、小中高・大学等での囲碁授業の支援のために活用しております。2025年度は325件、5,442千円のご支援をいただきました。

(6) MM 囲碁普及基金の活用

主に幼稚園への囲碁普及活動に取り組むために新たに基金を設立しました。基金を原資としてまずは東京近郊の幼稚園で課外教室の導入を進めていき、将来的には全国展開を目指します。

(7) 法人賛助会員の維持

法人賛助会員は、各企業の社会貢献活動として、普及活動にご支援いただく目的で、2005年に創設しました。子

供たちへの囲碁普及、若者の囲碁の才能の発掘と育成、囲碁による高齢者の健康増進等の囲碁普及に有効に活用しています。2025年度は、7社よりご支援を頂きました。

4-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好家への指導

世代を超えて楽しむ、生涯を通して楽しむ、地域社会におけるコミュニケーションの場づくり等、囲碁が取り入れられるよう活動しました。

(1) 囲碁学校

入門者から高段者まで様々な棋力の方を対象とした囲碁学校を常時開設し、棋士による講座・解説を実施しました。

(2) 指導碁

担当棋士を原則毎日常駐させ、入門者から高段者まで直接指導が受けられる環境を提供しました。

(3) ネット指導碁

インターネット対局サイト「幽玄の間」にて、全国の囲碁ファンが気軽に棋士の指導を受けられるよう環境を提供し、1,241局の指導碁を実施しました。

(4) 棋士派遣

法人、個人を問わず全国各地からの要請により棋士を派遣しております。派遣活動の主なものとして、大会審判、指導碁、講演・講座、入門教室等となり、2025年度は、ほぼ前年並みの101件、238名の派遣を行いました。

(5) 初級者教室（旧囲碁未来教室）の開催

級位者のための「囲碁未来教室」は月刊誌「囲碁未来」が2022年2月をもって休刊となりましたが、「初級者教室」として当面継続して教室を運営します。2025年度は全国で62の教室で開催されました。

(6) 囲碁愛好者との連携強化

多数の囲碁愛好家との連携を深めるため、全国の支部や囲碁愛好家、行政組織と連携し、全国各地で囲碁イベントを開催しました。また、支部代表者懇談会を全国8カ所で開催し、各地域の普及状況を共有しております。

第46回普及功労賞 高橋 一郎（福井県支部連合会会長）

吉村 三郎（奈良県 平群支部・支部長）

第44回普及活動賞 全国で24名を表彰

2025年度優秀支部表彰 支部ポイント数十傑 一位 三重支部（三重県）850P

会員増十傑 一位 棋士の囲碁スクール支部（東京都）24名

(7) 英語による大学生向け囲碁講義

グローバルな人材育成を目標に、自国の伝統文化を学んでもらうという目的で、青山学院大学（相模原キャンパス）の「Cool Japan」という授業の中で、英語による囲碁講座を実施しております。日本人の学生（約90名）を対象に、アンティ・トルマネン初段を講師として9月26日に実施しております。

(8) 留学生向け囲碁講義

留学生に日本の伝統文化に実際に触れて学んでもらうという目的で、2005年より青山学院大学（青山キャンパス）の留学生（約40名）を対象に、三谷哲也八段を講師として11月25日に実施しております。

4-3 海外への囲碁普及

文化交流を目的に囲碁を海外へ紹介し、他国の囲碁団体とともに、囲碁人口の拡大と現地囲碁愛好家の棋力向上を行いました。

(1) 国際囲碁連盟（IGF）会長国

国際囲碁連盟（IGF）の会長国として、世界各国への囲碁普及と組織化を行い、日本棋院、中国囲碁協会、韓国棋院の三カ国の代表が出席する三カ国首脳会議（オンライン）を開催しました。また、IGF総会、EGF総会への出席し、世界に囲碁を発展させる活動を継続しております。

(2) 第45回世界アマチュア囲碁選手権戦 カナダ バンクーバー大会

5月18日から21日にカナダ・バンクーバーにて、アマチュア世界一決定戦（スイス方式による8回戦）が開催さ

れました。世界 52 カ国・地域から 52 名の代表選手が参加し、優勝は中国代表の馬天放選手（2021 年以來 2 度目の優勝）、日本代表の大関稔選手は、惜しくもポイント差で準優勝となりました。

(3) 海外棋士派遣

① アメリカ碁コンGRESS

アメリカ・テキサス州オースティン（会場：サウスウエスタン大学）で 7 月 11 日から約 1 週間にわたり開催（メインのオープン大会には約 350 名が参加）され、アンティ・トルマネン初段を派遣し、囲碁講義、指導碁、対局の検討等の交流を行っております。

② ヨーロッパ碁コンGRESS

ポーランド・ワルシャワにおいて 7 月 18 日より約 2 週間にわたり開催（予約者約 1,000 名）され、豊田裕仁三段を派遣し、囲碁講義、指導碁、対局の検討等の交流を行っております。

③ ワールドユース

マレーシア・スランゴール州で 8 月 21 日から約 1 週間にわたり開催（選手 28 名）され、大橋拓文七段を派遣し、囲碁講義、対局の検討等の交流を行いました。また小川蓮院生が準優勝となりました。

(4) 海外拠点での取り組み

① 岩本北米基金（INAF）

2014 年 5 月にニューヨーク碁センターを売却し、アメリカ囲碁協会（AGA）と提携して、米国 NPO 法人『岩本北米基金＝INAF』を創設し、ワシントン DC の囲碁センターの活動促進や、日米文化交流・指導プログラムなど北米での普及活動を継続しております。

② 岩本囲碁アウトリーチ基金（IGOF）

2022 年にシアトル碁センターを売却後、新たな基金（岩本囲碁アウトリーチ基金＝IGOF）を設立しました、また、2023 年 9 月に地元シアトルのコミュニティセンターへ活動拠点を移し活動を継続しております。

③ 岩本ヨーロッパ基金（IEF）

2020 年にオランダ・アムステルダムにあるヨーロッパ囲碁センターを売却後、基金化による活動を現地組織と準備しています。

④ 日本棋院南米本部

ブラジル・サンパウロにある南米本部は、現地組織により、サンパウロを中心とした南米での普及活動を継続しております。

5 段級位認定

大会、紙上認定等により棋力測定を実施しました。認定が上達の基準となり、棋力の証明にもなっています。また、棋力に差がある場合の対局でも公平に勝敗を競うことができます。

(1) 段級位認定大会

棋力別の大会を開催し、対局結果により棋力の認定を行っております。

(2) 紙上認定

碁ワールド、特別紙上認定、一般紙に掲載される認定問題やホームページに認定問題を掲載し、棋力の認定を行っております。

(3) 情報会員

情報会員向けにホームページに認定問題を掲載し、棋力の認定を行っております。

(4) 幽玄の間会員

ネット対局サイト「幽玄の間」にて、一定の条件を満たすことによる棋力の認定を行っております。

(5) 囲碁シル

囲碁アプリ「囲碁シル」（2025 年 11 月リリース）にて、一定の条件を満たすことによる棋力の認定を行っております。

6 囲碁大会の開催

各拠点を中心に各種大会を開催しました。また、日本棋院県本部、県支部連合会、日本棋院支部の協力により、囲碁大会の主催・後援等を行いました。

6-1 青少年対象の囲碁大会の開催

高校生以下を対象とした高校選手権、少年少女囲碁大会、小・中学校囲碁団体戦、こども棋聖戦等を開催しました。

第 49 回 文部科学大臣杯 全国高等学校囲碁選手権

日程	2025年8月4日(月)～6日(水)
会場	日本棋院東京本院(東京都千代田区)
内容 結果	○男子団体戦：優勝 駒場東邦高等学校(東京都) ○女子団体戦：優勝 南山高等学校女子部(愛知県) ○男子個人戦：優勝 渡邊 彩登(埼玉県・大宮高等学校) ○女子個人戦：優勝 倉谷 圭乃(東京都・女子聖学院高等学校)
実施者	主催：日本棋院、全国高等学校囲碁連盟、高等学校文化連盟全国囲碁専門部 後援：文部科学省 協賛：株式会社ブルボン、シチズン TIC 株式会社、株式会社囲碁将棋チャンネル

第 46 回 文部科学大臣杯 少年少女囲碁大会(競輪補助事業)

日程	2025年7月29日(火)～30日(水)
会場	日本棋院東京本院(東京都千代田区)
内容 結果	○小学生の部：優勝 岩切 知輝(宮城県・都城市立祝吉小学校) ○中学生の部：優勝 横手 将生(東京都・大田区立東調布中学校) ○本大会の様子はNHK E テレで放送
実施者	主催：日本棋院 後援：文部科学省、NHK 特別協賛：大成建設株式会社 協賛：公益財団法人 JKA

第 18 回 文部科学大臣杯 小・中学校囲碁団体戦

日程	2025年7月27日(日)～28日(月)
会場	日本棋院東京本院(東京都千代田区)
内容 結果	○小学校の部：優勝 品川区立品川学園(東京都) ○中学校の部：優勝 仙台市立第一中学校(宮城県)
実施者	主催：日本棋院 後援：文部科学省、NHK 協賛：株式会社イベロ・ジャパン、公益財団法人 JKA

第 15 回 くらしき吉備真備杯こども棋聖戦全国大会

日程	2025年12月20日(土)～21日(日)
会場	マービーふれあいセンター(岡山県倉敷市真備町)
内容 結果	○低学年の部：優勝 鄭 智皓(大阪府・白頭学院建国小学校) ○高学年の部：優勝 永代 斗真(東京都・三鷹市立東台小学校)
実施者	主催：日本棋院、倉敷市、読売新聞社、倉敷市文化振興財団 共催：倉敷市教育委員会、山陽新聞社 後援：矢掛町、関西棋院 協賛：幻冬舎、倉敷真備ライオンズクラブ

6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催

(1) 宝酒造商品ご提供大会

宝酒造株式会社から宝酒造商品 3,000 名超分を全国の地元大会での賞品としてご提供頂き、多くの方に宝酒造商品をお持ち帰り頂きながら、大会を楽しんで頂ける仕組みとなっています。

(2) アマチュア棋戦

第 19 回 朝日アマチュア囲碁名人戦

内容	挑戦手合 夏 冰 アマ名人 - 栗田 佳樹選手 夏 冰 アマ名人が2勝0敗で防衛、2連覇
----	--

	都道府県代表等の全国大会を開催し挑戦者を決定、アマ名人に三番勝負で挑む挑戦者合制
--	--

第71回 全日本アマチュア本因坊決定戦

内容	決勝 平岡 聡選手 - 齊山 天彪選手 平岡 聡選手が優勝 都道府県代表等の全国大会を開催し、予選リーグ、決勝トーナメント戦にてアマ本因坊を決定
----	---

(3) 女流アマチュア選手権

第68回 全日本女流アマチュア囲碁選手権大会

内容	決勝 藤原 彰子 女流アマ - 内田 祐里選手 藤原 彰子 女流アマが連覇 通算4度目 都道府県代表等の全国大会を開催し、予選リーグ、決勝トーナメントにて女流アマを決定
----	---

(4) 女流アマチュア都市対抗戦

第59回 女流アマチュア都市対抗戦

日程会場	11月4日(火)から5日(水) 愛媛県県民文化会館(愛媛県松山市)
内容	松クラス 優勝 茶娘会A(埼玉) 山クラス 優勝 茶娘会B(埼玉) 1チーム5名による団体戦。31チームが全国から集結。

(5) 阪急電鉄納涼囲碁まつり

第12回 阪急電鉄納涼囲碁まつり

日程会場	8月13日(水)14日(木) ホテル阪急インターナショナル(大阪府大阪市)
内容	公開席上対局、大盤解説会、棋士との交流タイム、女流指導碁会、若手5面打ち指導碁、 クラス別チャンピオン戦、シニア大会を開催し約600名が参加しました。

(6) 都道府県民まつりの開催

地域間での親睦・交流を深めることを目的とした支部単位の団体戦や、認定大会の開催を県本部・支部連合会を通じて促進し多数の参加を得ました。

① 世界アマ日本代表決定戦 県予選

2019年度から世界アマ日本代表決定戦はアマ竜星戦と合併していますが、今年もアマ竜星戦が中止となったため、世界アマ日本代表決定戦県予選も中止となりました。

② 日本棋院支部対抗戦 都道府県大会

各県の大会・行事の中で、地域間での親睦・交流を深めることを目的に支部単位の団体戦を開催し、2025年度は13道県、616人が参加しました。

(7) 全国規模イベントへの参加

10月18日から21日には岐阜県で「ねんりんピック岐阜2025」が行われ、10月4日、5日には長崎県雲仙市で「ながさきピース文化祭2025 囲碁の祭典」として国民文化祭が行われ参加しております。

(8) インターネット大会

2024年7月より、プロ棋士とアマチュアがリーグ戦を戦う、「全日本囲碁オープン順位戦」を開始しました。成績によって昇降給があり、プロとアマが対等に戦うリーグ戦です。2025年度は4回開催しました。

(9) ジャンボ大会、オールアマ団体戦等の団体戦

囲碁ファンの交流の場として、団体戦の人气が高まっています。1チーム3名から15名までの各種団体戦を開催しました。

6-3 国際囲碁選手権及び海外囲碁大会等への協力

第20回 KPMC(韓国首相杯)世界アマ囲碁選手権戦が、世界52カ国・地域から選手が集まり11月7日から14日に韓国・太白市で開催され、日本代表選手として栗田佳樹選手を派遣しました。

7 表彰

棋道の研鑽、囲碁の普及と発展に顕著なご貢献の方々および囲碁界の将来を担う棋士を対象に表彰しております。

(1) 大倉喜七郎賞

日本棋院の生みの親、故大倉喜七郎氏の遺徳をたたえ、1964年に創設。棋士、アマチュア、国内外問わず、囲碁

普及に特に功勞のあつた方を表彰します。

第55回 大倉喜七郎賞 山下 功 (NPO 法人囲碁文化継承の会 理事長)
井上 光夫 (日本棋院栃木県本部長、株式会社井上総合印刷 代表取締役会長)
Thomas Hsiang (ローチェスター大学名誉教授、国際囲碁連盟顧問 (元副会長))
安藤 隆司 (名古屋鉄道株式会社 代表取締役会長)
伊東 香織 (倉敷市長)

(2) 秀哉賞

二十一世本因坊秀哉名人の業績を永く記念するため1963年に創設。囲碁界において顕著な成績を収め、将来が嘱望される棋士に贈呈されます。

第63回 秀哉賞 (段位タイトルは受賞時1月27日現在)
一力 遼 棋聖・名人・王座・天元・本因坊・桐山杯・応氏杯

(3) 棋道賞

棋道賞は、月刊誌「月刊 碁ワールド」の前身、「棋道」(1967年)によって創設され、日本棋院所属棋士を対象に各棋戦において、顕著な成績を収めた棋士を表彰する賞です。タイトル戦を主催、協賛する新聞各社、テレビ局の囲碁関係者が選考委員となって選出します。

第59回 棋道賞 (段位タイトルは受賞時1月27日現在)

最優秀棋士賞	一力 遼 棋聖・名人・王座・天元・本因坊・桐山杯・応氏杯
優秀棋士賞	芝野 虎丸 十段・竜星
新人賞	蕭 鈺洋 新人王
女性棋士賞	上野 愛咲美 女流名人・女流立葵杯・女流棋聖
国際賞	上野 梨紗 SENKO CUP・扇興杯
最多勝利賞	芝野 虎丸 十段・竜星 52勝22敗
勝率第1位賞	大西 竜平 広島アルミ杯若鯉 0.8364 (46勝9敗)
連勝賞	一力 遼 棋聖・名人・王座・天元・本因坊・桐山杯・応氏杯 13連勝 (2025/6/26~2025/9/3) 鈴木 伸二 SGW 杯中庸 13連勝 (2025/8/26~2025/11/13) 大西 竜平 広島アルミ杯若鯉 13連勝 (2025/4/3~2025/7/7) 大淵 浩太郎 六段 13連勝 (2025/1/27~2025/4/21) 三浦 太郎 テイケイグループ杯俊英 13連勝 (2024/12/9~2025/3/31)
最多対局賞	芝野 虎丸 十段・竜星 74局

(4) 囲碁殿堂表彰

日本棋院創立80周年記念事業として囲碁殿堂資料館の発足とともに創設し、囲碁史上に多大な業績をあげ、囲碁の隆盛に貢献した人を顕彰(殿堂入り)します。なお、2024年度より4年毎の表彰に変更しております。

8 囲碁関係情報提供

次世代への継承のため、出版物およびインターネット上に、囲碁文化・技術等に関する情報を発信しております。

(1) 雑誌の発行

- ① 月刊碁ワールド (B5判、152頁建)
毎月20日発売(会員購読、拠点の売店、全国書店販売)。中級者から有段者向け、棋戦解説を中心にグラビア、講座、読み物、海外ニュース、トライアル問題等を掲載しております。
- ② 囲碁年鑑 (B5判、396頁建)
月刊碁ワールドの臨時増刊号として5月に発行。国内棋戦、国際棋戦、アマ大会、囲碁界の記録集、棋士名鑑等を掲載しております。

(2) 電子媒体による情報提供

- ① ホームページ
棋戦情報、イベント情報、棋士プロフィールをはじめ、これから囲碁を始めた方への入門ページ、囲碁ナシ

ショナルチーム「GO・碁・ジャパン」、学校囲碁普及事業の情報等を提供しております。

② ネット対局サイト「幽玄の間」

あらゆる世代のあらゆる地域の人たちが囲碁を楽しめるように、棋戦や主要なアマ大会の手順中継、中継された棋譜のアーカイブ提供、同好会機能による囲碁ファン同士の交流、ネットによる囲碁大会の開催、勝敗予想機能等を提供しております。

③ 情報会員

ホームページに付設し、60年近くにわたる約7万局の棋譜データ等を提供している。棋譜解説、動画講座等の情報提供しております。

④ 日本棋院囲碁チャンネル（映像配信）

2018年2月にGoogle社の提供する映像配信サービス「YouTube」上に「日本棋院囲碁チャンネル」を開設し、棋戦やイベントのライブ配信を行っております。番組配信数 217 回（前年比+16 回）、チャンネル登録者数 58,157 人（前年比+5,009 人）、視聴回数 5,946,732 回（前年比 342,330 回）、総再生時間 1,458,607 時間（前年比-90,591 時間）となり、チャンネル登録者数は増加しております。

9 囲碁殿堂資料館

2004年11月15日に開設し、囲碁殿堂入りの方々を顕彰するとともに、囲碁の歴史、囲碁文化、関連図書、由緒ある囲碁用品展示、歴史に残る名棋譜の展示等を一般に公開している。また、2025年11月よりホームページにてVRで巡るオンライン版「囲碁殿堂資料館」の提供を開始しました。

10 各拠点での活動

10-1 有楽町囲碁センター

年々囲碁ファンの高齢化は歯止めが掛からず来客者数も減少傾向にありますが、有楽町駅徒歩1分の利便性、月間約2,500名程度の利用者があります。経費削減には限界がある中、収支を均衡させるべく、来客者の回復と新規利用者の開拓に向けて、新たな企画やフレッシュな講師陣の登用等を行っております。

10-2 関西総本部

大阪市北区に拠点を置く関西総本部は、近畿六府県（大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山）と広島、岡山両県を統括し囲碁普及を通じて社会に貢献できる活動に取り組みました。普及拠点である「梅田囲碁サロン」を運営し各種普及イベントの開催、指導碁、貸室、販売そして教室等を運営しました。

(1) 主要大会の開催および後援（主なイベントの参加人数は以下の通り）

- ・第11回阪急電鉄納涼囲碁まつり大阪 —————約600名
- ・夏休み子ども囲碁フェスティバル2025 —————約300名
- ・寝屋川囲碁将棋まつり —————約400名
- ・定例段級位認定大会（年8回開催） —————計579名
- ・各種親睦大会、シニア大会、アマ棋戦地方予選など〔年35大会〕一計1844名

(2) 会館事業の充実（梅田囲碁サロン）

「梅田囲碁サロン」

年末年始、お盆休みを除き営業を行い普及に努めました。

大阪市の真夏日が年間最多記録を更新するなど記録的な猛暑にみまわれ、昨年同様、高齢者の外出控えの影響を受けるかと思われましたが、リピーター入場者やグループ、団体貸席等の利用動向にあまり変化がなく入場者数を昨年レベルで維持することができました。入場者数の新規増と自然減が拮抗する状況が続いております。サロン運営として一般対局、棋士指導碁、級位者の日などを開催し、囲碁教室への貸室、各種団体に貸席誘致活動を行い、また販売コーナーでは人気のある囲碁用品、書籍等を中心に品揃えし商品の充実に努め快適な環境改善に取り組みました。今期も年間を通じ多くの方にご利用して頂き入場者数は昨年より微減の10,869人となり40万円の減収となりました。

(3) 大学での囲碁講座開設への取組み

令和7年度は関西圏において大学4校（京都大、大阪大、近畿大、桃山学院大）にて囲碁講座が継続して開講され授業の運営サポート等に協力しました。若者層への普及拡大として関西圏の大学への囲碁講座の新規開設と講座継続への働き掛けを引き続き積極的に行います。

(4) 小中学校および当本部管轄の遠隔地域への囲碁普及活動

市町村の行政及び教育委員会の理解を得ながら関西の小学校や幼稚園等の総合学習の時間やクラブ活動に囲碁授業導入に向けた働きかけ、継続開催をしている授業へのサポート等を行いました。今後も子ども達への普及をより一層拡大してまいります。

また、地域普及活動として大阪府寝屋川市、東大阪市の地域主催のイベントへの運営サポートや京都本部をはじめとした各支部連合会主催イベントへの後援や運営補助等を行い地域の囲碁普及に努めました。

10-3 中部総本部

名古屋市に拠点を置く中部総本部は、中部七県（愛知・岐阜・三重・福井・石川・富山・静岡県天竜川以西）を統括しております。

(1) 主要大会の主催および後援

愛知県江蘇省青少年囲碁交流（中止）、打ち初め式（51名）、日経杯新春囲碁大会（100名）、ジャンボ団体（352名）段級位認定大会（6回開催 計587名）

(2) 中部総本部の棋戦等の実施（新聞掲載）

「第66期王冠戦」中日新聞社主催（当本部主催の公式戦）

(3) 指導碁・囲碁学校・イベント

指導碁は、平日1名、土・日曜日は1~2名の棋士を配し、午前の部を新設するなどお客様のニーズに合わせた時間割となっております。囲碁学校は、子供から大人まで、入門者から有段者までの一貫したステップアップを踏めるよう、全9講座を開講しました。また、毎週日曜日にいつでも入門者を受け入れられるよう体制を整えております。主な講座は以下のとおりとなります。

「入門初級講座」「よくわかる囲碁講座」「こども教室」「アフタヌーン講座」「目指せシングル級講座」「目指せ初段講座」「特別高段講座」「総合講座」「モーニング講座」

(4) 法人会員

法人賛助会員2社、特別法人会員6社、中部法人会員21社、計29社となります。

II 収益事業

1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）

(1) 免状発行

棋力の証明となり、認定大会および紙上認定等で認定された段級位に基づき、9級から八段までの1,138通の免状発行を発行しました。また、免状には審査役である棋士が署名することになります。

(2) 普及指導員認定事業

囲碁愛好家の拡大と入門・初級者への指導者資格の認定として、9級以上の免状保持者に囲碁普及指導員申請の権利を付与し、指導者の充実を目指しています。2025年度末時点で321人の登録があり、2025年度は新規に13名が登録ありました。また、63名が資格を更新しました。なお、六段以上の高段位免状保有者には、公認審判員申請の権利を付与し、2025年度は新規に1名の公認審判員が誕生しました。

2 不動産賃貸事業（収益事業2）

東京本院では、1F駐車場と地下1F部分を、中部総本部では1Fおよび5F~6F部分を他法人に賃貸しております。収益部門の大きなウェイトを占めることより、中部総本部では、テナント入居の確保に向けて、代理店等との連携を継続しております。

3 販売品、書籍等事業（収益事業3）

(1) 販売事業

各拠点に売店を設け、碁盤、碁石、碁笥等の対局用具、各種用品、書籍等人気のある商品を中心に販売を行っております。また、電話による通信販売、インターネットを利用したオンラインショップを設置しております。

(2) 書籍製作販売

入門から高段者までの棋力向上講座、問題集、棋譜解説、定石、手筋、死活、詰碁、事典、囲碁の歴史書等を各拠点の売店および全国の書店にて販売しております。また、新刊については「令和版 初段合格の死活150題」（2025/9）、「令和版 初段合格の手筋150題」（2025/12）、「令和版 三段合格の死活150題」（2026/3）を発行しております。

(3) 電子書籍

2021年2月1日よりAmazon社のKindleにて電子書籍の販売を開始し、月刊碁ワールド、書籍等（週刊碁と囲碁未来はバックナンバー）の約340アイテム販売しています。

III 管理部門

1 コンプライアンス

コンプライアンス行動規範に則り、定款による執行体制、定款及び諸規程に沿った活動に努めるとともに、透明性の向上やガバナンスの確立に注力している。内部統制につきましては、各部所属長を中心に、監事監査の実施、改善対応、チェックシートによる確認作業等を実施しております。

2 受取寄付金の維持・拡大と有効活用

公益財団法人移行による税制上の優遇制度の理解促進に努め、受取寄付金の維持・拡大を図りました。法人賛助会員については、各企業の社会貢献活動としてご支援いただき、囲碁ナショナルチームの「GO・碁・ジャパン応援募金」、学校囲碁授業向けの「がっこう囲碁普及基金」の募集も継続、「創立100周年記念募金」の活用もしております。また、新規に「MM基金」を設定し、幼稚園向け普及活動を開始しております。なお、2016年3月より開始となる税額控除申請を2026年2月に更新（5年有効）しております。

3 営業および広報活動

営業体制強化のため営業広報部を新設し、棋戦のスポンサー等の獲得および従来からの広報活動と連携した組織づくりをしております。SENKO CUP ワールド碁女流最強戦、LG杯や農心辛ラーメン杯といった国際棋戦において、日本人選手が活躍し囲碁界への注目度向上に寄与しました。加えて、NHK大河ドラマ『豊臣兄弟』およびアニメ『薬屋のひとりごと』における囲碁シーンの監修や、『伍と碁』（週刊ヤングマガジン連載）が好評を博し、第5巻まで文庫化されるなど、文化・エンターテインメント分野においても囲碁の認知拡大に寄与しました。また、これらについて、メディアおよびSNSを通じて発信し、幅広い層への訴求を行いました。

IV 運営体制の充実をはかるための取り組み

- 1 不祥事の予防としてハラスメント研修を実施し、早期発見のため第三者相談窓口を設置している。また、不祥事が発生した場合には、委員会を開催し、公正に対応できる体制を整えている。
- 2 外部理事・監事には、棋道の継承・発展、国内外への普及、棋士の育成、文化の向上という日本棋院の目的に照らし、適切な人物を選任している。また、経営改革や公益法人改革に貢献できる人材を選任するとともに、必要な情報を迅速かつ正確に提供し、必要に応じて臨時会合を開催するなど、的確に職務を果たせる環境を整えている。

付 記

役員等に関する事項 (2026年3月31日現在)

役名	氏名	就任日	担任职務	備考
総裁	今井 敬	R7.7.1	名誉総裁	日本製鉄株式会社 名誉会長
顧問	石田 芳夫	R2.6.23	顧問	日本棋院棋士 九段 (二十四世本因坊秀芳)
顧問	高濱 正伸	R6.6.25	顧問	花まる学習会 代表
顧問	松浦 晃一郎	R7.6.23	顧問	元ユネスコ事務局長、公益財団法人日本ペア碁協会 理事長、世界ペア碁協会 会長
理事長	武宮 陽光	R6.7.9	理事長	日本棋院棋士 六段
常務理事	大淵 盛人	H26.6.24	棋戦部 海外室	日本棋院棋士 九段
常務理事	石田 篤司	R 4.6.21	関西総本部	日本棋院棋士 九段
常務理事	青木 喜久代	R 2.6.23	コンテンツ事業部 日本女子囲碁リーグ担当	日本棋院棋士 八段
常務理事	奥村 靖	R 6.7.9	中部総本部	日本棋院棋士 七段
常務理事	宮崎 龍太郎	H30.6.26	事業部 営業・広報部	日本棋院棋士 七段
常務理事	関 達也	R 6.7.9	普及部 総務部	日本棋院棋士 四段
理事	石村 和彦	R 2.6.23		国立研究開発法人 産業技術総合研究所 理事長
理事	稲田 修一	R 6.7.9		技術経営士 情報未来創研代表 早稲田大学 ウェルビーイング&プロダクティビティ研究所顧問
理事	遠藤 龍之介	R 2.6.23		元フジテレビジョン 取締役副会長
理事	島谷 弘幸	R 7.6.24		独立行政法人 国立文化財機構 理事長
理事	外池 徹	H30.6.26		アライドメディカル代表取締役、アフラック 元相談役
理事	中村 功	R 7.3.25		大成建設株式会社 常務執行役員
理事	柳本 卓治	R 2.6.23		囲碁文化振興議員連盟 会長
理事	吉原 由香里	R 6.7.9		日本棋院棋士 六段
監事	大内 隆美	H30.6.26		一般社団法人構想日本 プロジェクトリーダー (公益法人担当)
監事	藏本 隆	H30.6.26		公認会計士、税理士
監事	橋本 雄二郎	R7.3.25		日本棋院棋士 九段

事業報告の附属明細書

2025年事業年度につきましては、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書に記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため作成しておりません。

2026年6月
公益財団法人 日本棋院